

新しい妹背牛商工会長「さらに魅力ある商工会に」



5月17日に開かれた妹背牛商工会の令和6年度通常総会で、前会長からバトンを引き継ぎ、新しい会長に就任しました。「地域あつての商工会。会員の皆様と一緒に魅力ある商工会を目指し、各部署の活動を充実させたいです」と、抱負を語ります。



歩花灯の作業風景

きやま たくみ さん 59歳
木山 卓己

- ・妹背牛町出身
- ・株式会社 木山塗工部 3代目
- ・高校を卒業後、東京の写真事務所などで活躍。家業を継ぐため、1997年に一般建築塗装を請け負う同社へ入社。2011年、代表取締役役に就任。

東京で続けていた仕事を辞め、33歳で故郷にUターン。屋根や壁を塗装する会社の後継者として「一から覚える不安もありましたが、子どものころから見ていた仕事だから大丈夫」と、自らを奮い立たせました。

天候に左右される塗装業は、素早い決断や作業工程の段取りも大切で、仕事の効率化を図っています。

地域に目を向けると、どの業種も人手不足などの課題はありますが、町外から妹背牛温泉「ペペル」に足を運ぶ入浴客の増加で、新たな人の流れが生まれる明るい話題もあります。

6月上旬に、今年も花とライトで街を彩る「歩花灯」(ぼかっこ)を設置。7月7日には名物行事の「遊歩市」も開催されることから、「今後も皆様に楽しんでもらえる企画を考えていきたいです」と、話しています。

となりの外国人

ベトナム人の地域おこし協力隊員が町内の外国人を紹介する企画です。

今回は、妹背牛町内の佐藤鑄工株式会社で働いているカンボジア人技能実習生の女性2人と話し、彼女たちの生活の様子について詳しく聞きました。

チョン・チャンティさん(24)とチェア・スレイオンさん(22)は令和4年6月に妹背牛町へ来て、2年が経ちました。スレイオンさんは家族のことが恋しく、夕食後の1時間、毎日ビデオ通話をして、その日の出来事を話したり、家族みんなの様子を聞いたりしています。

2人は日本語をあまり話せないのですが、工作中やスーパーに行った時も簡単な言葉で対応しています。ですが、旭川の雪まつりに行ったときは、たくさんの雪で作られた大小のきれいな雪像を見て楽しんだそうです。



協力隊員のフォンさんからインタビューを受けるチェア・スレイオンさん(右)

協力隊員のリンさんに日本での暮らしぶりを伝えるチョン・チャンティさん(左)



食事は、インターネットで食材を買い、よくカンボジア料理を作ります。チャンティさんは「カンボジアでは手やスプーンを使って食事をするため、最初は箸を使うのがとても難しかったです」と食事のマナーを練習。わさびは辛くて苦手ですが、お寿司や天ぷらが好きといい、日本の食文化を楽しんでいます。